

第25回 固体・表面光化学討論会

第25回 固体・表面光化学討論会が2006年11月21、22日産業技術総合研究所共用講堂(茨城県つくば市)において、産総研・立矢フェローのお世話により開催された。本討論会は毎年開催されており、発表主題は、「無機および有機の固体あるいは表面・界面の関与する光物理化学過程とその応用」である。今年度は参加人数61名、発表件数は口頭発表(発表時間20分)のみで35件であった。また、特別講演として、飯島澄男先生による「カーボンナノチューブの表面・界面の問題」があり、カーボンナノチューブの基礎、および応用についての最先端の話を伺うことができた。

発表内容については、大きく分類して、酸化チタンを中心とした光触媒に関する発表が最も多く14件、次いで、レーザーアブレーション関係が5件、電子移動ダイナミクス関係の発表が4件(酸化チタン系2件、ポルフィリン系1件、フラレン系1件)と多かった。また、金や銀を用いた表面増強効果についての発表が3件、単一分子計測関係が2件、量子ドット関係2件、その他、応力発光、表面での光誘起反応による単分子層形成、固液界面における相分離構造の観測と光重合反応場としての応用、などの発表があり、どの発表についても熱心な議論が交わされていた。また、1つの会場のみでの使用であったため、すべての発表を集中して聞くことができる環境であったと思う。本特定領域研究メンバーでは、A02班、東北大・福村先生、北大・魚崎先生、京都工繊大・板谷(筆者)、A03班、東大・岩澤先生、東大・山下先生、阪大・山下先生、分子研・渡邊先生、A04班、東北大・及川先生の研究グループが発表を申し込まれていた。

来年度は、大阪府立大の安保先生のお世話により、同時期に開催される予定である。

